

2000年1月5日

## 鮫鱈とアンコウ

冬の鍋の中でも美味しいのは鮫鱈鍋である。グロテスクで地味な深海魚でありながらほとんど捨てる所のない身はアンコウの七つ道具と呼ばれ、鍋にアジト深みを持たせる。食べてみなければわからない魅力がある。

私のニックネームは鮫鱈ならぬアンコウだった。旧姓名を“安藤公”という。これが縮まってアンコウとなっただけなのだが、小学生のころからだからけっこう長い。医師になってからも安藤姓が重なったのもあって「アンコウ先生」で通ってきた。それ故鮫鱈には愛着があり、我がクリニックのロゴマークも「アンコウ」にした（カット）。二十年以上フリーハンドで描いているのでお手のものである。ところで「公（こう）」という名前は个性的であり、男性的でもあって、小さい頃は女の子は「××子」「○○み」が主流であったから、ひどく同級生の名前がうらやましかった。名前だけは男性と思われるので、今でも実は院長は女医だなんて顔を見て初めて知る患者さんもあるし、受取りのサインの時など本人かどうか聞かれることもある。しかし一度覚えられれば忘れられにくいという利点はある。今はこの名前が大好きであるし、姓が変わっても「アンコウ」のニックネームは捨て難い。

今冬は、ぜひ夫とおいしい鮫鱈鍋を食べに行き、鮫鱈とアンコウの魅力を再認識させたい。とは言っても、四才を頭に三人の子持ちの身としては、ゆっくりと鍋もつけないのが現状である。

# 鮫鯨とアンコウ

緑区 長谷川 公



ない身はアンコウの七つ道具と呼ばれ、鍋に味と深みを持たせる。食べてみなければわからない魅力がある。

私のニックネームは鮫鯨ならぬアンコウだった。旧姓名を「安藤公」という。

長い。医師になってから安藤姓が重なったのもて「アンコウ先生」で着てきた。それ故鮫鯨に着があり、我がクリニのロゴマークも「アンコウにした(カット)。二十上フリーハンドで描いたのでお手のものであるところ「公(こう)」という名前は個性的であり、性的でもあって、小さいは女の子は「××子」「××み」が主流であったからひとくく同級生の名前がう